

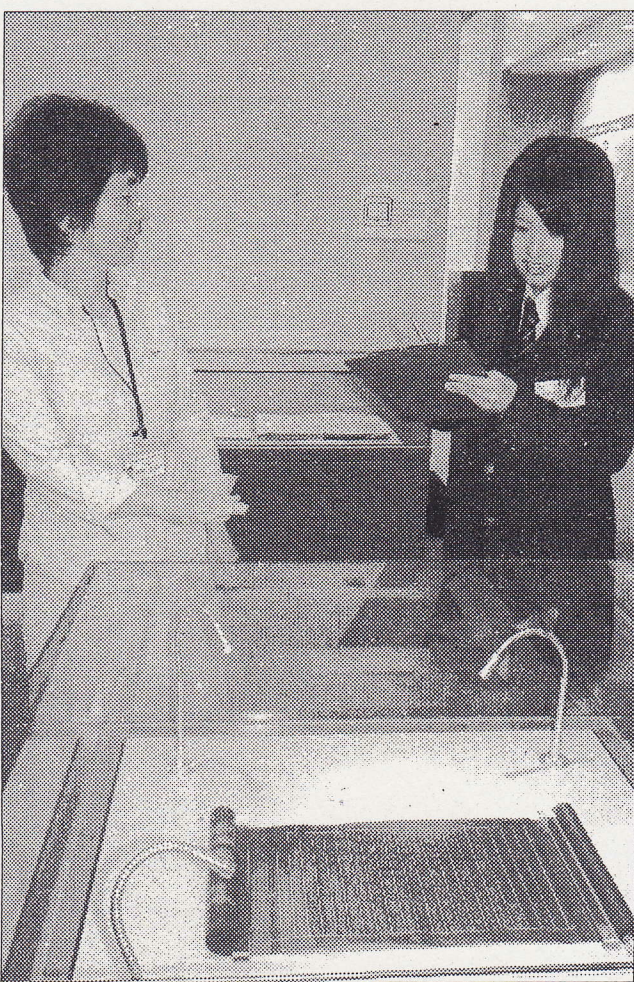
## 仕事に密着して職場を体感

### 鶴城丘高3年生、将来の指針で

県立鶴城丘高校(杉山邦雄校長)の国際ビジネス系列の3年生40人が12日、西尾市内の店舗や公共施設などで、社会で働く人たちの聞き取り調査をしながら自身の今後の将来について考えた。

職場の仕事を観察する職業教育「ジョブシャドウイング」に取り組んでいる。今年も生徒らがシャオの小売店や西尾市、西尾信用金庫をそれぞれ訪れた。

就職を希望している加藤さんは、デスクワークだけでなく施設内の展示ディスプレイや書籍解説などの仕事もする学芸員の仕事内容の幅広さに驚いた。特に、現場に出たの発掘調査が一番楽しいことを聞き、「大変ですけど、好きな仕事でがんばっているのかっこいい。勉強になりました」と目を細めていた。



【写真は、展示方法の説明を受ける加藤さん(右)】

同校では毎年、企業などの従業員とふれあいながら

では、加藤綺華さん(17)

が文化振興課主査の鈴木とよ江さんに密着。事務系の